

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後デイサービスこころライフ		公表日 2024年 12月 24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14		広さを活かせるよう、定期的に不用品は破棄し整理整頓に努めている。	制作の材料等場所を取ることがあるので、使用しないものは事務所へ片付ける。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14		その日の利用人数に合わせて、スタッフの人員を変えている。	引き続ききめ細やかな支援が行なえる配置数を維持する。定期的に職員にヒアリングをする。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14		視覚聴覚過敏の特性のあるこどもや、気持ちを落ち着かせさせるための仕切り部屋を用意している。提出物（ファイル、水筒）の場所を分かりやすく示している。	片付ける場所などをより分かりやすくできるように分類する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14		季節を感じられるように、その時期の飾りなどを飾り、殺風景にならないようにしている。また毎日の掃除、換気を徹底している。	書類や制作の材料などが増えてしまうので、散らからないように片付けをする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14		視覚聴覚過敏の特性のあるこどもや、気持ちを落ち着かせさせるための仕切り部屋を用意し、必要に応じて使用を促している。	引き続き継続する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14		定期的に会議の場を設け、参加できる職員に参加を促している。	引き続き継続する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		年に1度評価の機会を設けており、職員で共有している。	引き続き継続する。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		支援前後に申し送り、振り返りの時間を設けており、改また必要に応じて改善内容をメールで全職員に共有するようにしている。	引き続き、風通しよく意見交換ができるように機会を作り、業務改善に繋げる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14		必要に応じて依頼し、職員で内容を共有し改善に繋げている。	引き続き必要に応じて依頼する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14		定期的に社内研修を行っている。また、資格取得を積極的に推進し、研修受講の機会を設けている	引き続き継続する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14		作成したものを職員間で話し合い、意見を取り入れながら修正を重ねた。また、公表している。	引き続き質の高い支援プログラムが作成できるよう、適宜意見交換をする。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	14		アセスメントした内容を職員間で話し合い、計画の作成に活かしている。	引き続きたくさんの材料を元に分析し、個々にあった計画を作成する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14		普段こどもと関わる職員も交えて定期的に支援についての会議をしている。	引き続き会議を継続し、こどもと関わる職員の意見をふまえた計画を作成する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14		計画を全職員が見られるようにしており、共有を徹底している。	引き続き計画を共有し、また達成経過や達成するためのアクションなどを意見交換する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14		適宜使用していつでも確認できるようにしている。	引き続き継続する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14		保護者からのヒアリング内容、普段のこどもの様子を踏まえて職員間で話し合い、支援内容を設定している。	引き続き個々にあったきめ細やかな支援ができるよう、日々の日報を詳細に記録し、保護者と密に情報共有をする。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14		個人ではなく、事業所内のスタッフの話し合いのもと立案している。	引き続き継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		1週目に作業トレーニング、2週目に制作活動といったように、週によってプログラムを変更している。また目標や内容を月単位で見直し、固定化しないように努めている。	引き続き継続する。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14		どちらかに偏らないよう、計画を作成し支援している。	引き続き偏らないようにする。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14		支援前に申し送りを行い、保護者からの連絡事項や前回の様子などを共有している。また、必要に応じて役割を伝えている。	引き続き継続する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14		支援終了後に打ち合わせ、振り返りを徹底し、必要な情報は職員全員に周知するようにしている。	引き続き継続する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14		支援計画の達成状況を5領域ごとに細分化し、記録するように徹底している。	引き続き継続する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14		定期的にモニタリングの実施、見直しを行っている。	引き続き継続する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	14		4つの基本項目を職員全員に周知し、支援を行っている。	引き続き継続する。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14		こちらが指示するのではなく、子どもの特性によって選びやすいように2択で示すなどして選べるように工夫している。	日常から作業活動まで、子どもが自己選択できる声かけや支援を全職員ができるように支援の振り返りを随時おこなう。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14		児童指導員、管理者、普段子どもをよく理解している職員が参加している。	引き続き継続する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14		提携の関係機関と、普段から情報交換をするよう努めている。	引き続き体制を整え、必要な時に適切な連携がとれるように関係づくりに努める。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14		学校の先生さんとお迎え時に情報共有をしたり、トラブルなどが発生した際は連絡をとれる関係をつくっている。	引き続き、必要なことは情報共有や意見交換ができる関係づくりに努める。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12	2	必要に応じて情報共有をするように努めている。	徹底できるよう、保護者へ聞き取りをして利用していた関係機関
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14		卒業生はまだ少数ではあるが、就労先に情報提供するよう徹底している。	引き続き、卒業先への情報提供をおこなう。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14		必要な際は、助言いただけるようお願いしている。	引き続き研修等も行えるように計画する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	14		子ども食堂のお手伝いやフリーマーケット出店など、地域の子どもと関わる機会を設けている。	引き続き、あらゆる機関に提案をして子ども同士の交流する機会をつくる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	14		必要な際は、参加するようにしている。	引き続き必要な際は参加する。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14		メールや電話、送迎時にその日の様子や目標の達成進捗を伝え、また家庭と学校の様子をヒアリングするようにしている。	引き続きコミュニケーション、信頼関係づくりに努め、個々に合わせた支援につなげる。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12	2	要望があれば、情報提供等をおこなうようにしている。	今まで以上に研修の計画、支援プログラムの作成の機会をもつ。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14		利用者全員への説明を徹底している。	引き続き、随時説明をするよう徹底する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14		半年に1度の面談の際に、意向を詳細に確認する機会を設けている。また、送迎時等利用時に確認をしている。	引き続き、優先考慮の観点を大切にできるよう日々コミュニケーションをとる。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14		作成後は説明をし、不明点はクリアにした上で同意いただくように徹底している。	引き続き継続する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14		気軽に相談しやすいよう、日々のコミュニケーションを大切にしている。また適切な対応ができるように研修等を実施するよう努めている。	引き続き、適切な助言と支援ができるよう、職員が自己研鑽できる研修の機会を設ける。また、日々の支援で職員同士が積極的に意見交換をする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	4	要望があった際に、少人数で実施をした。	今まで以上に保護者からの要望をヒアリングし、機会を計画する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14		発生した際は責任者と相談の上迅速に対応、また職員全員に周知して再発防止に繋げている。	引き続き職員同士連携をとり、迅速に対応できるよう努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14		インスタグラムでの発信、また公式LINEを活用して活動概要や予定を発信している。	引き続き発信に注力する。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14	こどもの写真取り扱いマニュアルを、職員全員に周知している。また個人情報に関する書類は、全て鍵のついたロッカーに保管するようにしている。	引き続き取り扱いに十分注意する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14	こどもの特性に合わせて、ボードや絵カード、アプリなど意思疎通するツールを活用している。	引き続き個々の特性に合わせて、意思疎通ができるよう取り組む。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	地域のフリーマーケットや子ども食堂の手伝いに参加し、地域住民にイベントの案内をしている。	引き続き積極的にイベントを企画し、子ども達が多くの地域の方と関われるように努める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	マニュアルを作成し、定期的に訓練の実施、またマニュアルを職員間で見直しを行っている。	より多くの職員に訓練に参加してもらえるよう、日程調整を工夫する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	定期的に実施している。	引き続き、職員間で役割を変えながら精度があがるように実施する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	保護者へヒアリングし、内容を全職員に周知するよう徹底している。てんかん発作が起きた際の対応や緊急連絡先がすぐ分かるように掲示している。	引き続き利用者への確認を徹底する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14	食物アレルギーのある子どもについて、保護者から医師の指示書の内容をヒアリングをして、基本完全除去を徹底している。	引き続き誤って摂取することがないように、確認共有を徹底する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14	担当職員を決めて、訓練や研修の計画実施をおこなっている。	引き続き、定期的を実施する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	災害時の避難先等、共有を徹底している。	引き続き周知するよう徹底する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	ヒヤリハット報告書を作成し、全職員が見られるようにしている。また、再発防止に向けて、定期的に職員間で話し合う場を設けている。	引き続き継続する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14	虐待防止研修担当者を決めて、定期的を実施している。参加できなかった職員には個別に説明して感想を記載してもらうようにしている。	引き続き、虐待防止に対する理解を深めて再発防止できるよう注力する。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	14	今の利用者に対しては身体拘束を想定していないが、組織的に基準を決めている。	身体拘束を行う可能性のある利用者がある場合は、十分に説明するようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後デイサービスこころライフ

公表日 2024年12月24日

利用児童数 42

回収数 35

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	33	1		1	充分広いと思います。	広さを活かせるよう、必要のないものを精査し撤去します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	33	1		1		現在の状態を引き続き継続していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	1		2		現在の状態を引き続き継続し、改善点を再考し対応していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35					毎日の掃除、整理整頓、また感染症対策を徹底し、心地よく過ごしてもらえるように努めます。
適切 な支 援の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	34	1				定期的に職員間で話し合いの機会を持ち、個々に合わせた質の高い支援ができるよう努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34			1		定期的に支援内容と支援プログラムに乖離がないか、話し合い見直しを行います。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	35					今以上に保護者との情報共有、また利用者の活動状況の分析を行い計画書を作成してまいります。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34			1		今以上に利用者の様子を観察して分析し、支援内容を設定いたします。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	34			1		常に放課後デイサービス計画と乖離がないか見直し、支援を行います。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	34			1	平日も土日祝もそれぞれ時間帯に合わせ、様々な経験をさせてくれている。	作業トレーニング、制作、イベントなど利用者の成長に繋がるよう新しい情報をキャッチし、職員間で共有し取り組みます。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	23	1	3	8	地域の方と子ども食堂での関わりやフリーマーケット出店など、貴重な経験になっている。	引き続き、子ども食堂など地域との関わりを大切に、社会と繋がる機会を多く持ちます。土日以外も機会を作れるよう努めます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	35					引き続き安心して利用いただけるよう説明を徹底します。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	35					引き続き安心して利用いただけるよう説明を徹底します。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	2	6	3		必要があれば、対応してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	35				いつも写真を送ってくださったり、丁寧に様子を教えてくださって有難く思っています。	引き続きメールや電話、送迎時など密に情報共有を行います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	34			1		保護者とコミュニケーションを取りながら、必要に応じて支援してまいります。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	35				子どもの大好きなことをよく分かってくださり、楽しみも作ってもらっていると感じています。	今以上に、こどもとご家族に寄り添う気持ちを大切に、安心して相談できる関係を築きます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	22		6	7		職員間で話し合い、必要に応じて開催できるようにしていきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	32	1		2		安心して相談いただけるよう、定期的に体制整備の確認を行い、こどもや保護者に周知してまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	35				送迎時などいつも声かけをしてくださって、安心して子どもを見送っています。	引き続き丁寧な相談や情報共有だけでなく、メールやLINEの活用、送迎時のコミュニケーションを大切にします。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	35				毎回写真と動画を送ってくださるのが楽しみです。親子で見えています。	引き続き、公式LINEでの毎日の様子報告、またInstagramでの活動発信を継続してまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	34			1		引き続き十分に注意して取り扱います。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30			5		定期的に職員間でマニュアルの見直しを行い、保護者へ周知します。また、定期的な訓練を実施いたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30			5		定期的な訓練を実施いたします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34			1		定期的に安全面の見直しをおこない、周知いたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	31			4	したことはないが、不調のお子さんの対応を子どもが言っており、その説明もきちんと受けた。	発生した際はマニュアルに則り、速やかな連絡を徹底いたします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35				何でも相談したり、話してもしっかり対応して下さるところが素晴らしいです。	今以上に日頃から職員間で子どもの様子の情報共有をおこない、きめ細かな支援をおこないます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34		1		・外部に消極的な関わりが基本なのに、自ら行きがっている。 ・先生とのお話や友達とのできごとなど、帰宅後に話が止まりません。	引き続き、子ども達が安心感と充実感を持って過ごせるよう職員間で支援の振り返り、プログラム内容の計画をおこないます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	35				・満足です。いつもありがとうございます。 ・いつも丁寧にしてくださり、感謝しています。	引き続き現状に満足せず、職員間で支援の見直しやプログラム内容の計画をおこない、支援の質を高めていきます。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後デイサービスこころライフ		
○保護者評価実施期間	2024年 1月 1日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 35
○従業者評価実施期間	2024年 1月 1日		2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域のイベントに積極的に参加し、社会と繋がる機会を大切にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報をキャッチし、職員間で参加できるイベントを提案するようにしている。 ・活動時間に制作したものを地域のフリーマーケットで販売した。接客に子ども達も参加して、地域の方とのコミュニケーションを持つ機会をつくった。 ・子ども食堂でお弁当詰めの手伝いをし、地域の方と交流できる機会をつくった。 ・美術展や演奏会の鑑賞に行くことで、芸術に触れて世界を広げられるように取り組んでいる。 	今後も定期的にフリーマーケットや子ども食堂の参加を継続する。更に新しいイベントの情報をキャッチして、子どもたちがデイの中だけでなく、社会との繋がりを感じられる機会を多くもつ。
2	日頃から子どもの状況を保護者に伝えあい、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・公式LINEを用いて、保護者と事業所双方気軽に情報共有ができる仕組みをつくっている。 ・送迎時に保護者の方にその日の様子をお伝えし、ご家庭での様子もヒアリングするようにしている。 ・てんかん等の持病がある場合の対応についても個々に確認をし、職員全員が周知できるよう徹底している。 	引き続きLINEや電話を活用しながら保護者の方との情報共有を大切にする。
3	活動プログラムが固定化されないように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人ではなく、事業所内のスタッフの話し合いのもと立案している。 ・1週目に作業トレーニング、2週目に制作活動といったように、週によってプログラムを変更している。また目標や内容を月単位で見直し固定化されないようにしている。 	引き続き支援計画をもとに、個々の力と社会性が身に着くプログラムを立案し、実行振り返りを繰り返しながら、有意義なプログラムができるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子ども達にとって、ものの場所などが分かりやすい環境づくり	制作の材料等が増えて、物が多くなることがある。また、ものが増えたと分類分けが曖昧になり、子ども達が片づけしづらくなる要因になる。	日々必要なものを精査して、常に整理整頓ができるようにする。遊び道具など、入れ物を用いてカテゴリー別に分け、カテゴリー名を記載する。子ども達が事業所のものを利用しやすく片付けしやすい環境づくりをする。
2	保護者同士、きょうだい同士の交流の機会を設けるなど利用者家族に対する支援	直接的な要望がないのもあり、後回しになる現状がある。	現在利用されているご家族、また卒業されたご家族も招いた交流会を企画し、進路について相談できる機会をもつ。また、きょうだいが参加できる交流会の開催希望があるか随時確認する。
3	職員全員のスキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々真剣に子ども達と向き合い支援しているが、更に専門性の高い支援をする必要がある。定期的に研修を実施しているが、日程等により参加が難しい職員もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もあらゆる形で研修をおこない、全員が参加できるような頻度を増やしたり個別に対応する。 ・子どもの支援に関して、成功事例などを今まで以上に共有していく。 ・またひとりひとりの支援の理解を深めるため、ケース会議の頻度を増やす。